

衆議院国土交通委員会ニュース

平成 22.3.5 第 174 回国会第 5 号

3月5日(金) 第5回の委員会が開かれました。

1 国土交通行政の基本施策に関する件(ハッ場ダム問題等)

- ・前原国土交通大臣、大島内閣府副大臣、馬淵国土交通副大臣及び三日月国土交通大臣政務官に対し質疑を行いました。
- ・参考人から意見を聴取することに協議決定しました。

(質疑者及び主な質疑内容)

金子 恭之君(自民)

- ・自然災害により、個人の住宅や財産が流された場合の支援はどのようになっているのか。
- ・旧政権においても114のダムを中止するなどダムの見直しが行われており、現政権だけが見直しを行っているわけではない。「政策転換」という表現をすべきではないと考えるが、大臣の考えはどうか。
- ・ハッ場ダム建設予定地を一度も訪れることなく大臣就任直後にハッ場ダム建設事業の中止を表明したのはなぜか。

小 淵 優子君(自民)

- ・川原湯温泉の方々代替地での再建を望んでいるにもかかわらず、6名の群馬県選出民主党議員が、地元の声ということで大臣に渡した現在の場所での再建を内容とする川原湯温泉に係る要望書について、大臣はどのように考えるのか。
- ・今後、ハッ場ダム建設予定地の住民と対話をしていくためには、中止ありきではなく、ゼロベースでの再検証をすべきだと考えるがどうか。
- ・湖面一号橋の必要性等を判断するために関係住民に対して現在実施されている移転に関するアンケートの結果はいつ出るのか。また、この結果は政策にどのように反映されるのか。

佐 田 玄一郎君(自民)

- ・ハッ場ダムに関する大臣の「予断を持たずに再検証をする」という発言は、大臣が示しているハッ場ダム中止の方針と考え方が異なるのではないのか。
- ・大臣の考える「ダム湖のない生活再建」のイメージとはどのようなものか。
- ・大臣の主張する「できるだけダムに頼らない治水」とはどのようなものか。

塩 川 鉄也君(共産)

- ・国土交通省の政務三役が、ハッ場ダムの水没予定地区の住民を一軒一軒訪問して、ハッ場ダム建設事業の中止に伴う混乱と迷惑についてお詫びするとともに、中止の理由を直接説明すべきではないか。
- ・ハッ場ダムについて、地元住民に対し治水・利水の両面で必要なくなったということを明確に説明する必要があるのではないか。
- ・ハッ場ダム建設事業の中止に伴う住民に対する補償措置はどのようにするのか。国策に翻弄された住民に対し、個人補償を行う考えはあるのか。

中 島 隆利君(社民)

- ・ハッ場ダムの事業費が平成16年の第2回基本計画変更時に、変更前の約2,110億円から約4,600億円に増額された要因を伺いたい。
- ・ハッ場ダム建設事業の中止を求める際、地元住民の生活再建や関係6都県の理解を求めることが重要である。地元住民の生活補償についての今後の課題及び計画の道筋について伺いたい。

熊 田 篤嗣君(民主)

- ・国土交通省品木ダム水質管理所は、どの時点で品木ダムのヒ素濃度を把握していたのか。
- ・「平成20年度吾妻川水質改善対策委員会」において、ヒ素濃度が高い最新の資料ではなく、平成元年時点の低い数値を使用しており、国土交通省は、ダム推進のために情報を隠蔽しているように思われる。このような問題への所見及び今後のあるべき姿について伺いたい。

中 島 正純君(民主)

- ・平成20年4月から平成22年1月のハッ場ダム工事における一般競争入札での「一社応札」は、136件中44件で、

32.4%という高い確率で発生している。このように「一社応札」が多数ある事実について見解を伺いたい。

- ・ハツ場ダム事業の受注業者から多額の献金を受けている国会議員が、国会での質疑において、その公共事業の再開を主張していることをどう思うのか。